

日本入  
知事所  
行  
土曜日  
才七五号

聯合軍三方より攻撃す

● 独、伊、軸軍方陣を布く  
● チューニシア漸く緊張

華府十八日 A.P. は、アフリカ攻略が二週間の戦況を次の如く報じた。

(一) アフリカ攻略は、チューニシア争奪の決戦に集中せられたが、軸軍は、埃及侵入軍、将、ロメルの撤退軍を中心として、チューニシア防禦陣を張つた。

(二) ロメル軍を追撃して、ベンガデー附近に迫つた英第八軍、モンガモリ軍は、リビア領より西漸して、チューニシアの東国境より、又、英第一軍アンダーソン軍は、米軍を伴つて東進し更に、佛國叛將ジラウ軍は、南チューニシアより海岸に向い進軍し始め、所謂、東西及南より三方包圍攻撃を開始した。

(三) 中八軍統帥、本官、アレキサンダー將軍の發表によれば、ロメル軍敗走の

戦果より推測して、タックは十数台しか無いかう到底、チューニシアは防衛し得まいといふ。  
更に、カイロ発十八日 U.P. は、前週オラン港占領の際、佛國艦隊が列して防戦し始め、砲弾雨を降す中を犯して、敵前上陸せし米軍の實戦情勢を詳報した。

南太平洋海戦の跡

● 比島に米兵残存の風評  
● 墨国に日本軍來寇の備

南太平洋作戦は、日米双方とも大捷を報じたが、エルパソ英字紙は、戦果に對する批評、米國の輿論を紹介して、その一二を抄録すれば、

(一) 十月の海戦で、米國駆逐艦 スミス号が、日本自爆機が流石の如く、沈没したて来て大損傷を受けた。艦載記者ベルの談

(一) スクリップ、ハワード外報記者シムズの記事として、墨國版に、日本首相の命令一下、米國に侵入して来る者、日本軍隊が、敵軍部隊の名稱の下に巧妙に組織されてゐる事を暴露した。

(一) U.P. 発電は、比島北部の黒人居住地帯に、米國陸軍の残兵あると発見したと報ず

に即時着手すると A.P. が公表した。日本軍の侵略に備ふる為である。  
土曜日の世間

● フナ方面多々マクアサーは、フナ日本甚地に日本軍を包圍し、日本軍苦戦中と報ず。

● 伊本利を空龍す、英は本国より米はアフリカより交々伊本利工業地帯を空龍す。

● ラバルに全權、佛國ベタン將軍は自己の權限一切をラバルに讓與し、命令一途に佛國の結束を強化すると發表す。

● 大統領夫人、米國婦人が一齊に起つて、出征軍人を補助する一切の軍事服務の必要に迫られたと婦米が一書を發表した。

● エーミッツ提督、ソロモンに於て、日本軍の鼻を挫いたから、今度北太平洋攻勢をとることが出来ると思ふ語した。

● フーバー進言、フーバーは、食糧糧監督官は現農相ウイックカードが適任者であると雄辯し、更に附言して曰く、無闇に役人を作らうに命令一下、統制が出来るやうにするのが所望だと云つた。

之を普通郵便のやうにして出せば、其まふニユーヨークの檢閲局に送附されて無用の努力と云ふ故、特に注意ありたし。

◎ 久我氏追悼會、サンディゴに會て在せし千景縣人久我治平氏は、今回ルイジアナ收容所にて逝去されし由にて、在所千景縣人及旧友が會合にて、明全曜日、午後七時より、オ十一中隊食堂に於て追悼會が會はるゝと

病院便り  
△入院 成田匡太郎(東京) 倉田吉太郎(岡山)

◎ ソロモン戦は全國民士氣を鼓舞す  
昨日のエルパソ、ハラドボ、スト紙に於て、レーモンド、クラッパ氏は大要左の如く所説を成す  
今回の、ソロモン戦は、全國民の士氣を鼓舞する事夥し、中には、トルマン、スコット中將と、タニエル、セ、カラハン中將が、自身の戦術を以て、克く強敵の鋭鋒を挫折し、遂に大勝利の因を成せしは、最も讚嘆に價するものあり。  
是の小に、我軍の武器、精銳は北阿戰と共に、太平洋戦争の證明する所なるが、武器に優れて、我の重寶とすべしは、實に両中將の勇敵無双の義戦にありと。

南海のたふれ如何に今日の陽の夕映  
空にとは奥向つと思ふ、高山泥草

